



「無相」
むそう

實相寺 花園会報

元妙心寺管長 太室

たしつ
やまだ

山田無文老大師

(明治三十三年～昭和六十三年)

ある日、お釈迦様は靈鷲山で弟子達に、何に言わず黙つて一本の花を拈じて示しました。すると一人、摩訶迦葉尊者のみニコッと微笑んだそうです。するとお釈迦様は「我に正法眼藏涅槃妙心実相無相微妙の法門あり。今、摩訶迦葉に付嘱す」と仰いました。お釈迦様のみ教えが伝わった瞬間でした。無相大師や妙心寺の名前の由来です。

令和元年
十一月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第127号



山に参拝されたことの無い方は、是非この機会にお参り下さいますよう、宜しくお願ひ致します。
今回は寒い時期ではあります、普段未公開の東海庵の石庭、龍泉庵の襖絵なども拝観致します。
また一休寺の精進料理も頂きますので、お楽しみに。

十月六日（日）午前十時より、先住桃嶺和尚の大祥忌（三回忌）を厳修致しました。導師には妙心寺派総務部長の上沼雅龍師をお迎えし、部内寺院を中心には十一名、親類及び花園会役員の総勢二十三名でお参りしました。

先月号でもご案内しましたが、来たる二月の本山団体参拝旅行の〆切は、今月二十三日の達磨忌です。今回旅行日程表、申込用紙も同封致しました。實相寺は十名の割り当てを頂いていますが、未だ申込者は僅少の為、ご本

「先住桃嶺和尚大祥忌」

「妙心寺団參の募集」

「隨想隨筆」④ 一照顧脚下ー

『中外日報』掲載のコラム最終回です。

読者は僧侶や寺族です。

経営学者のドラッカーが『非當利組織の經營』日本版のまえがきで、「最古の非當利組織（NPO）はかつての日本の寺にあつた」と述べているのは大変興味深いことです。が、ドラッカーによると非當利組織のミッションには、機会と卓越性とコミットメントの三本柱が不可欠だそうです。

例えば、私達のミッションが仏教を未来に伝えることだとすると、小子高齢化という機会は必ずしもマイナスばかりではなく、そこには新しいニーズもある筈です。また仏教がこれまで培ってきた思

いう問題ではないでしょう。要は周囲に対する配慮に欠けた僧侶の言動が問題となるのです。

さらに自らを省みる事は重要です。例えば、本来托鉢して頂いた食べ物は全て自分の物ではありません。基本的に僧侶では食べ物は皆で平等にシェアします。しかし現代の寺院は夫々が独立した法人の為、經營は主に住職に依る所となり、ともすると寺院の存続も各住職の努力次第、自己責任という風に考えがちです。

一見当然の事の様ですが、はたしてそれが仏教的でしょうか。これは一例ですが、結局今や僧侶の価値観も一般社会と何ら変わらないのではないでしょうか。

ですから未来に仏教を伝えていく為に

想や文化にはそうしたニーズに十分応えるだけの卓越性もあると思います。ただ問題は私達僧侶が仏教にコミットメントしているか否かでしょう。

仏教にコミットメントするとは、世俗的な価値よりも仏教的価値を優先することと、まさに三宝に帰依することです。

日本仏教は伝来以来、戒律よりも世間法を優先してきた歴史がありますが、それでも明治以前は大乗戒がありました。現在ではほぼ無戒状態ですので、やはりここに一つの問題があると思われます。

ただ今さら肉食妻帯を禁ずるのは非現実的ですし、住職よりも寺庭さんの方が檀信徒から信頼されている場合もありますので、単に結婚さえしなければ良いとは、私達はもっと本質的に仏教的であるべきだと思います。幅広く人材を受け入れるには、人も資金も流動性が必要ですし、その為には組織や法人のあり方も検討する余地があります。しかし何より大切なのは、私達自身が如何に仏教的な生活を送っているかでしょう。結局それは、夫々が小僧時代に教わった事を日々眞面目に務めていくしかないのだと思います。

仏教を未来に伝える為には、先ず第一に私達僧侶のあり方が重要なのは言つまでもありません。しかし昔ながらにやっていれば良いかというと社会構造や家族のあり方が変化した今、やはりそれだけでは不十分なようです。達磨忌ではその辺の思う所をお話させて頂きます。